

# この人に インタビュー

INTERVIEW

石黒商事株式会社  
代表取締役

石黒 信彦 氏

石黒商事株式会社

〒509-5142 土岐市泉町久尻245-6

TEL 0572-55-2153

FAX 0572-54-1106

<http://www.ishiguro-shouji.co.jp/company.html>

## 石黒 信彦 氏 プロフィール

生年月日 昭和 26 年 9 月 30 日

血液型 A 型

家族 妻・長男・長女

## インタビュー

広報委員長 尾濃化工工業(株) 尾崎 禎泰  
広報委員 (株)大竹醤油醸造場 大竹 征三  
広報委員 (株)カネコ小兵製陶所 伊藤 克紀

尾崎：明けましておめでとうございます。本日は、石黒商事株式会社の石黒信彦さんにインタビューさせていただきます。よろしくお願いします。

石黒：こちらこそ、よろしくお願いします。

尾崎：まず、御社の概要について教えてください。

石黒：昭和3年創業で、一昨年で80年を迎えました。私で3代目です。平成元年に会社が60周年を迎え、ちょうどうちの親父が65歳になり、語呂が良いからと社長交代を言われ、その時にまだJCをやっている忙しかったんですが、社長に就任しました。交代したのが37歳でたいへんでしたが、平成22年は

丁度社長になって22年目とわかりやすいんです。

尾崎：私も先代が65歳で引退をし、JCをやりながら36歳の時に急に社長になりました。私は2代目ですがよく似ていますね。

## オールエネルギー・環境エネルギーに着目

石黒：最盛期、窯業関係で重油が70%を占めていましたが、その後、燃転があってLPガスに変わってきました。今は地場産業が厳しくなって、まったく逆転して70%が民生用、30%程が産業用になっています。



**大竹：**環境エネルギーに目を向けられたのは、さすがだと思いますね。この地域では石黒商事さんが一番早かったのではないですか？

**石黒：**もう5年くらいになります。環境ISO 14001も7、8年前に取りました。化石燃料を扱っていますから、売れば売るほどCO<sub>2</sub>が出ますので、そういう矛盾を感じていました。社員もそうだと思います。しかし、これからも売っていかざるを得ないですから、少しでも環境にいいこともやろうとまずISOを認定取得しました。太陽光にも目を向けて。ISOの審査基準が厳しいので、社内でも省エネを徹底してやりました。

**尾崎：**産業用の30%というのは陶器関係ですか？

**石黒：**そうです。最近はおール電化、太陽光など、おールエネルギーと言っていますが、すべてのエネルギーを扱おうと取り組んでいます。家庭用ですとLPガスからおール電化に変わってきていますから、いち早く自社でも取り入れました。

**尾崎：**売上としては、まだガスが多いのですか？

**石黒：**そうですね。やっぱり多いですね。

**尾崎：**将来的には電気になるのでしょうか？

**石黒：**環境問題もありますし、基本的には、化石燃料というものとはなくなってくるでしょうね。

**尾崎：**社長の経営戦略は大変前向きですね。

**石黒：**平成18年に中長期計画の勉強に1年間東京に行ってきました、1年かけて「事業発展計画書」を平成19年に作り、それに基づいてやっています。2016年までの計画がビジョンから経営理念まですべて判るようになっていきます。これがうちのバイブルというか、これから外れないようにいろいろ実行していきたいとやっています。

**尾崎：**中長期の計画はなかなか立てられないのが現状ですよ。厳しい経済状況が続いていますが、影響はどうですか？

**石黒：**当然あります。金融危機などがあって、なかなか厳しいですが、できるだけ計画に沿ってやるよう努力しています。この時に立てた目標は「なにがなんでもやるぞ！」とプラス思考で社内で「元気だせ、元気だせ」と言っています。

**尾崎：**環境問題はこれからますます厳しくなり企業にも影響が及ぶと思います。CO<sub>2</sub> 25%削減はどうですか？

**石黒：**厳しい数字だとは思いますが、それに挑むという方向付けはいいですね。

**恵まれた環境を活かして地域の活性化を！**

**尾崎：**次に法人会との関わりについてお伺いします。

**石黒：**若い時に一生懸命やりましたので少し早めに役を退きました。当時の故渡辺修専務には父親と二代でたいへんお世話になりました。

**伊藤：**何か思い出はありますか？

**石黒：**青年部会では姉妹提携をしていた尾道法人会青年部とお互いの地を行ったり来たりし、交流会では同世代の方と語り合い、酒を飲み楽しかったですね。尾道はこの地域とは異なる文化があったりしてよい思い出です。

**尾崎：**僕は最近法人会の役員をやっているいろんな活動がわかってきました。今、会員拡大をやっていますが、ただ入れと言われて入っただけだと活動などよくわからないので、その辺の説明をしっかりとしないといけませんね。

**石黒：**僕らの時も問題になりましたが、ただ会員を増やせだけでは、魅力がないですね。その辺にいつも疑問を感じていました。そこから法人会の社会貢献活動が生まれてきたのだと思います。



**尾崎：**次に地域の活性化についてのお考えをお聞かせ下さい。

**石黒：**元気を出さないとダメですね。この地域は高速道路も中央道と東海環状、国道も21号と19号があって、JR、一級河川の土岐川と全国有数のこんなに恵まれた緑豊かな環境にあるわけだから、寂れては絶対おかしい。現に年間430万人集まるアウトレットや企業を誘致する工業団地があるのですから、もっと宣伝をしないとイケないですね。リニアにしても、この地域がJR東海にとっても立地条件が一番がいい。それなのに宣伝が下手というか不況でみんなが「あかん、あかん」とマイナス思考のことばかり言うから、みんな絶対に良い地域だと思わない。「土岐市はダメだ」という話ばかりになる。土地は安いし、交通網は発達しているから、こんない所は他にはないくらいの宣伝を、行政、法人会、商工会議所みんなでやらないとイケないですね。そうすれば「そうか、土岐・多治見はそんなに便利でいいところなんだ」と企業も必ず進出してきますよ。地場産業は厳しいんだけど、みんなでもっともっと元気を出して頑張ってもらいたいですね。

**尾崎：**どこの市長さんも観光客を呼び込もうと、町興しを考えてみえて、土岐市ですと陶器で栄えたところだから、それを上手に利用して作陶を体験させるとか、いろいろな手法を考えると地域の活性化に繋がりますね。

**石黒：**たまに、アウトレットに行きますが、三河は当たり前で富山、石川県からも来ていますね。

**尾崎：**そこで陶器というのはどうですか？

**伊藤：**年に一度、広場でやっています。

**石黒：**5、6年前に、プラズマリサーチパークに力を入れたいと、商工会議所や都市基盤整備機構に話をしに行きましたが、なかなか難しく断念しました。あの一画は温泉も出るんですよ。陶器はもちろんのこと、私もコマダとかセルフスタンド、コンビニなどの複合施設を考えたんですが、上手くいかなかった。下石に造ることになりました。

何かキッカケを作らなければと中心市街地の活性化もやったんですが、どうも行政とかみ合わなかったですね。

**大竹：**アウトレットのお客さんと陶磁器産業が求めている

お客とはミスマッチのような気がしますね。下（市街地）へはなかなか下りてこない。客層が違いますね。

**尾崎：**どんぶり会館、志野織部など道の駅は有名ですよ。

**大竹：**多治見市は中心地に町があって四方に拡がっているが、土岐市には中心に山があるという地理的な欠点があるんじゃないですかね。

**石黒：**合併問題も一生懸命やりましたが残念な結果でした。合併すれば地場産業はもちろんのこと病院でも消防でもいろいろな面で効率化、合理化ができて良かったんじゃないでしょうか。合併後の地域の活性化についても期待を持ってずっと考えていたんですが、多治見市と笠原町の合併のみになりましたね。

### 社会貢献は先代からの教え、座右の銘は自分を生かす

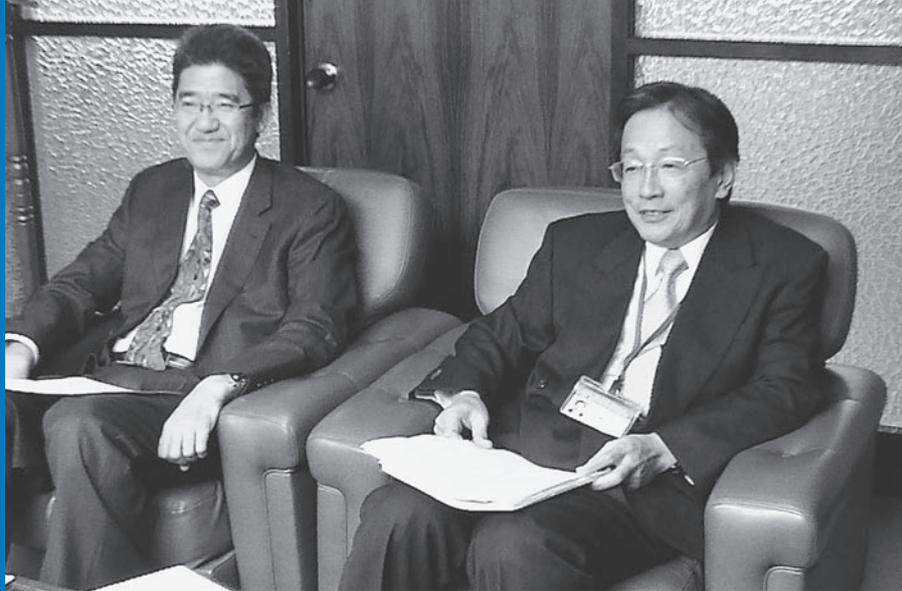
**大竹：**人生観や座右の銘などについてお話をください。

**石黒：**世の中の役に立つ、人の役に立つということを先代から随分教えられてきましたので、社会貢献という考え方だけはキチンと持ってやっていきたいと思えます。

**大竹：**石黒さんとこんな機会が持てましたので初めてお話ししますが、父上の輝彦さんはとてもスケールの大きい人物で尊敬できる方でしたね。

**石黒：**亡くなって7年8年経ってもよくそんなお言葉をいただきます。私はとても父親には及ばないと思えます。

JCのプロ長をやっていた時、素晴らしいことばと出会い、それを座右の銘にしています。山本有三さ



んの「路傍の石」に出てくる「たった一人しかいない自分を、たった一度しかない一生を、本当に生かさなかったら、人間、生まれてきた甲斐がないじゃないか」ということばです。特にこの年になると、自分を生かすということを、会社にも家庭にも社会にも、と考えますね。

**尾崎：企業家として社会貢献は大事ですね。税金を払い、従業員に対しても「この会社にきて良かった」と言われる会社づくりをしなければ。**

**石黒：**最近、コンサルタントから教わった「3KM 生涯幸福設計プログラム」というすばらしい考え方があるんです。1年後、3年後、10年後の個人、家庭、会社のありたい姿、目標、行動計画を具体的に3KM手帳に10項目ずつ書くんです。書かないと忘れてしまいますのでね。(笑い)素晴らしい言葉も書いてあるのでこれを社員に毎朝、5～10分間読ませるんですが、潜在意識に働きかけると達成できるんです。個人も会社も家庭も一体でないとなかなか上手くいかないですが、そのために3KM手帳を全社員に持たせています。

### 健康法はジョギング、特技はフェンシング

**伊藤：**趣味や健康法についてお伺いします。

**大竹：**フェンシングをやられるそうですね。

**石黒：**フェンシングは特技です。(笑い)

**伊藤：**石黒さんは日本代表でしたから。大学から始められてアジア選手権の金メダルを取ってみたいですよ。

**石黒：**マイナーなスポーツでしたが、最近、太田雄貴君が北京オリンピックで銀メダルをとって注目され、やっと陽の目をみました。

**尾崎：**今まではあまり馴染みがないスポーツですね。

**石黒：**でも岐阜県は全国一強いですよ。高校でいうと羽島北とか大垣南とか、大学では朝日大学。国体やオリンピックや世界選手権などいっぱい出場しています。

**大竹：**今でもやられますか？

**石黒：**ほとんどやってないです。年に1～2回は明治大学のOB会がありますので、そこへ行ってやるくらいです。体育会系でしたので、今でもいい経験になってます。

**尾崎：**その他の健康法は？ゴルフはどうですか？

**石黒：**ゴルフは身体をこわしてからやらないんです。今は一週間に一度土岐川沿いを6キロくらいジョギングしてます。これをやると一週間健康でいられるかなと思って続けています。

**伊藤：**石黒さんが身体が悪いという話は聞いたことがないんです。一時的に腰を痛めたというのは別ですけど、心身共に健康でないとバイタリティーも湧かないですし、前向きに会社経営はやってられないですよ。健康管理は大切ですね。

**尾崎：**私は年に一度誕生月にドックに入ります。経営者が倒れたらたいへんですから、自分自身で健康に気をつけ、ストレスを貯めないようお互い心掛けましょう。

### 10年後バトンタッチしてルーツの土地に癒しの森を造りたい

**尾崎：**では、最近チャレンジしてみえることは何かありますか？

**石黒：**<sup>ごときまき</sup>五斗蒔という所に築110年くらいの家があるんです。そこは我が家のルーツで、ひいおじいさんが小牧から来て、そこを開墾して農業を始めました。二代目からは商売を始めたので農業はやっていないので、休耕地が6,000坪ほどあるんです。雑木林になっているので、それを10年先には癒しの森にしようと思っています。

八ヶ岳で俳優の柳生博さんがりっぱな森を造っているというので見に行き、「これだ！」と思いました。遠くまで行かなくてもこんな近い場所があるので、僕も10年先には会社の人も休日には畑をやったり

出来るような癒しの場を造ろうと考えています。

**大竹：**お父さんは老後を五斗蒔の家で過ごされたので、私もよくおじゃましていました。

**石黒：**僕もそこで老後を過ごせたらと思っています。65歳になったら社長を息子にバトンタッチするつもりです。

**尾崎：**僕も同感です。いつまでもやってもね。

**伊藤：**あんまり早く引退しないようにね。最近、そういう雰囲気があるんで（笑）。

**石黒：**僕らは創業者と違って、どちらかというと未練がないですね。自分はバトンを引き継いだ責任はあるんですが、バトンを渡せば基本的には責任は終わるんです。

**伊藤：**創業百年は難しいらしいですね。バトンを貰って渡すにしても、その時代その時代に合った経営戦略なり、いろんなことをやっていかないと、なかなか企業が長続きしない。その中でバトンを受け取った人が本当に一生懸命やらないとさらに次世代に継げない訳ですが、そういうことを着々と準備して、老後までにこうしたいって考えてみえるってことはすばらしいですね。

**石黒：**僕が譲られた時、ものすごく苦勞したんです。ちょうど世の中の流れで変えざるを得ない時代でしたが、次の息子には絶対そういう苦勞をさせたくないんです。そこで、今年賃金体系（賃金、賞与、退職金規定）を一生懸命努力したものが正しく報われるように全部変えたんです。今まで全部自分で給料、



ボーナスの査定をしていたんですが、いつまでもこんなことをしてはダメだし、息子にこういうことをさせたくないと思い、ガラス張りにして役員に査定させるようにしました。社長が密室ではないので、社員もわかり易くて喜んでいると思います。

**尾崎：**ひとつ問題があるのは、各役員が感情で判断する場合があります。仕事の内容ではなく、合う合わないでやられると困るんです。

**石黒：**最後は社長の調整ですね。若い社員を上手に伸ばしてやることです。私はいつ、いなくなってもいいようにと、いろいろ準備しています。

**伊藤：**いろんな意味での危機管理ですね。心を配ってやっておられるのはすごいですね。

**尾崎：**今日は、たいへんいいお話をきかせていただきました。ありがとうございました。

